

( 公印省略 )

15病防第 1 号の 9  
平成 15 年 12 月 2 日

各関係機関の長 殿

福岡県病虫害防除所長

病虫害発生予察情報について ( 送付 )

このことについて、病虫害発生予報第 9 号を発表したので送付します。

平成 15 年度病虫害発生予報第 9 号  
主要病虫害の発生現況及び予報の概要

【 野 菜 】

作物名	病虫害名	発生現況 ( 平年比 )	発生予想 ( 平年比 )
冬春トマト	灰色かび病 菌核病 葉かび病	並 並 並	並 並 並
冬春ナス	灰色かび病 うどんこ病 すすかび病	並 多い 並	並 多い 並
冬春キュウリ	べと病 うどんこ病 灰色かび病	やや少ない 並 並	並 並 並
イチゴ	うどんこ病 灰色かび病 アブラムシ類 ハダニ類	多い 並 やや多い 多い	多い 並 やや多い 多い
キャベツ	黒腐病 菌核病 コナガ	少ない 少ない 少ない	並 並 少ない
レタス	灰色かび病 菌核病	並 少ない	やや多い 並
野菜共通	ミナミキイロアザミウマ コナジラミ類	やや少ない 少ない	やや少ない 少ない

## 【野菜】

### 1 トマトの灰色かび病

#### (1) 予報の内容

発生量：平年・前年並

#### (2) 予報の根拠

ア 11月5半旬調査の結果、発病果率は0%（平年：0%、前年：0%）であった。

イ 気象予報では、12月の平均気温は平年より高く、降水量は平年並が多いと予想されている。

#### (3) 防除上注意すべき事項

ア 換気を行い、多湿にならないように管理する。

イ 被害葉、被害果は早めに除去する。

ウ 薬剤感受性低下を避けるため、同一系統薬剤の連続散布を控え、異なる系統の薬剤をロ・テ・ション散布する。

エ 薬剤防除については使用基準を守り、危被害防止に努める（以下の病害虫についても同様）。

### 2 ナスのすすかび病

#### (1) 予報の内容

発生量：平年並で、前年よりやや少ない

#### (2) 予報の根拠

ア 11月5半旬調査の結果、発病葉率は1.5%（平年：1.5%、前年：5.5%）であった。

イ 気象予報では、12月の平均気温は平年より高く、降水量は平年並が多いと予想されている。

#### (3) 防除上注意すべき事項

ア 病勢が進展してからでは防除が困難となるため、発病初期の防除を徹底する。

イ 換気を行い、多湿にならないよう管理する。

ウ 草勢が低下すると発病が助長されるので、草勢が低下しないよう着果量調整や、肥培管理を適切に行う。

エ 発病葉はできるだけ除去し、ほ場外に持ち出し処分する。

オ 本病の分生胞子は、曇天・雨天時に形成され、晴天時に飛散するので曇天・雨天後の晴天日に薬剤散布すると効果が高い。

カ 薬剤感受性低下を避けるため、同一系統薬剤の連続散布を控え、異なる系統の薬剤をロ・テ・ション散布する。

### 3 ナスのうどんこ病

#### (1) 予報の内容

発生量：平年より多く、前年並

#### (2) 予報の根拠

ア 11月5半旬調査の結果、発病葉率は10.8%（平年：1.6%、前年：9.3%）であった。

イ 気象予報では、12月の平均気温は平年より高く、降水量は平年並が多いと予想されている。

#### (3) 防除上注意すべき事項

ア 整枝・剪定を行い、通風、採光をよくする。

イ 不用な下葉は除去する。

ウ 薬剤感受性低下を避けるため、同一系統薬剤の連続散布を控え、異なる

る系統の薬剤を口 - テ - ション散布する。

#### 4 イチゴのうどんこ病

##### (1) 予報の内容

発生量：平年より多く、前年並

##### (2) 予報の根拠

ア 11月5半旬調査の結果、発病株率は9.2%（平年：4.9%、前年：8.1%）、発病果率は平均0.8%（平年：0.2%、前年：4.5%）であった。

イ 気象予報では、12月の平均気温は平年より高く、降水量は平年並が多いと予想されている。

##### (3) 防除上注意すべき事項

ア 本病の初発生は、新しく展開した葉の裏に認められるので、上位葉裏面の病斑の有無を随時確認し、早期発見に努める。

イ 下葉かぎを行い、薬液が葉裏にもかかるようにする。

ウ 薬剤感受性低下を避けるため、同一系統薬剤の連続散布を控え、異なる系統の薬剤を口 - テ - ション散布する。

#### 5 イチゴのハダニ類（平成15年11月7日発表の注意報第9号参照）

##### (1) 予報の内容

発生量：平年・前年より多い

##### (2) 予報の根拠

ア 11月5半旬調査の結果、寄生株率は11.9%（平年：0.9%、前年：0.1%）、発生ほ場率は57.7%（平年：-、前年：3.7%）であった。

イ 気象予報では、12月の気温は平年より高く、降水量は平年並が多いと予想されている。

##### (3) 防除上注意すべき事項

ア 厳寒期は、ハダニ類の増加は緩慢となるが、2月下旬頃から急激に密度が上昇するので、発生状況に注意する。

イ 多発生後は防除が困難となるので、早期発見、早期防除に努める。

ウ イチゴ以外の植物にも寄生するので除草を行う。

エ 寄生した株のかぎ取った下葉や除草した雑草は、ほ場周辺に放置せず速やかにビニル袋等に入れて密閉し処分する。

オ 薬剤感受性低下を避けるため、同一系統薬剤の連続散布を控え、異なる系統の薬剤を口 - テ - ション散布する。

#### 6 レタスの灰色かび病

##### (1) 予報の内容

発生量：平年・前年よりやや多い

##### (2) 予報の根拠

ア 11月5半旬調査の結果、発病株率は1.1%（平年：0.1%、前年：0%）であった。

イ 気象予報では、12月の平均気温は平年より高く、降水量は平年並かやや多いと予想されている。

##### (3) 防除上注意すべき事項

ア トンネルの換気を行い、多湿にならないように管理する。

イ 多発生後は防除が困難となるので、早期発見、早期防除に努める。

ウ 被害株は早めに除去する。

エ 薬剤感受性低下を避けるため、同一系統薬剤の連続散布を控え、異なる

る系統の薬剤をロ - テ - ション 散布する。

# 1 2 月の気象予報 ( 1 か月 )

( 予報期間 1 1 月 2 9 日 ~ 1 2 月 2 8 日 )

2 0 0 3 年 1 1 月 2 8 日

福岡管区気象台発表

## 【概 要】

向こう1か月の平均気温は高く、降水量は平年並か多く、日照時間は平年並の可能性が大きいでしょう。

九州北部地方では、天気は数日の周期で変わるでしょう。

## 【要素別確率】

( 単位 % )

要 素	低 い ( 少 ない )	平 年 並	高 い ( 多 い )
気 温	1 0	3 0	6 0
降 水 量	2 0	4 0	4 0
日 照 時 間	3 0	5 0	2 0

- < 1 週目の予報 > 1 1 月 2 9 日 ~ 1 2 月 5 日  
この期間の平均気温は、平年より高い可能性が大きいでしょう。
- < 2 週目の予報 > 1 2 月 6 日 ~ 1 2 月 1 2 日  
この期間の平均気温は、平年より高い可能性が大きいでしょう。
- < 3 ~ 4 週目の予報 > 1 2 月 1 3 日 ~ 1 2 月 2 6 日  
この期間の平均気温は、平年並か高い可能性が大きいでしょう。

## 参考資料

福岡における平年値

向こう1か月の平均気温、降水量、日照時間と1週目、2週目、3~4週目の平均気温

向こう1か月			平均気温 ( )		
平均気温 ( )	降水量 (mm)	日照時間 (h)	1 週 目	2 週 目	3 - 4 週 目
8.9	55.2	113.5	10.3	9.4	8.2

病虫害防除所では、病虫害の発生状況と防除について、ホームページでお知らせしています。アドレス及び番号は下記の通りです。

ホームページアドレス  
電子メールアドレス

<http://www.jpnpn.ne.jp/fukuoka>  
[kfok0301@sp.jpnpn.ne.jp](mailto:kfok0301@sp.jpnpn.ne.jp)